

Close up

鈴木佳秀学長退任インタビュー
「地域を支える大学として」

卒業式・卒業記念パーティーのご報告
卒業生からのメッセージ

就職活動を支える支援体制
新任教員・退職する教員からのごあいさつ
授業紹介③「日本近現代史」 藤野豊





アクティブラーニング紹介③ 「Keiwa HOPE」

東日本大震災から4年。敬和学園大学の学生たちは、今も被災地の支援を続けています。

現在は、定期的な募金活動や現地支援活動に加え、復興庁が行う「復興支援インターン」にも参加し、宮城県南三陸町の被災企業で、メカブを加工、出荷する職業体験を行いました。インターンに参加した学生たちは、その時の体験および、その後に行った被災地の状況を広く情報発信するという活動について、国連防災世界会議パブリックフォーラム（3月18日）にて事例報告を行い、見事、優秀賞（2位）を受賞しました。

もくじ CONTENTS

Close up	1
鈴木佳秀学長退任インタビュー「地域を支える大学として」	
鈴木佳秀学長をおくる言葉	3
二階堂馨 新発田市長、渡邊廣吉 聖籠町長、 高澤大介 オレンジ会長	
第21回卒業式・卒業記念パーティーのご報告	4
卒業生からのメッセージ	6
就職活動を支える支援体制.....	7
新任教員・退職する教員からのごあいさつ	8
虎岩朋加、木下光弘 ジョイ・ウィリアムズ、杉村使乃、何為民	
卒業論文のご紹介	8
アジア・ユース・フォーラムに参加して.....	10
おどりでつながる「けいわおどるわ」を開催...	10
授業紹介③「日本近現代史」 藤野豊	11
同窓会リレー・エッセイ③.....	12
「自分を変えてくれた出会いと経験」 須貝英幸（18期生）	
キャンパス日誌（12月～3月）	13

〈表紙写真〉
卒業式での酒井恭子さんによる答辞（p.4）



鈴木佳秀学長退任インタビュー 「地域を支える大学として」

鈴木佳秀学長が六年間の在職期間を終え、三月で退任いたしました。退職にあたり、敬和学園大学について語っていただきました。
(聞き手…広報委員長 藤本)

●学生たちへの思い出

敬和学園大学には学長として赴任したため、前任校の新潟大学と違い、演習(ゼミ)を通じた教育の機会を持って、学生たちと親しく接する機会が少なかったのが残念でした。それでも印象的な学生にたくさん出会うことができました。

例えば、数年前に卒業したIさん。私の日本の大学生に対するイメージは、学者を敷衍が高い存在とみて、講義に関する質問は、なかなかしないというものでした。しかし、Iさんは見事にそうしたイメージを碎いてくれました。Iさんは私の「比較宗教思想」という講義が終わるたびに、「分からないものは分からない」という率直な姿勢で、物怖じせず、どんな質問に来てくれました。

他には、最近卒業したMさん。本学のアクティブラーニングの一環として行われているUstream配信番組「KeiwaLunch」にMCとして参加していました。のびやかにそれでいて嫌味を全く感じさせない自己主張をすることができるところでした。

この二人の卒業生は、本学の教育を受けている学生の特徴をよく表し

ていたと思います。本学は、異文化の価値を尊重し、差別感覚のない、自由な精神の確立を目指したキリスト教主義教育に基づき、リベラルアーツ教育を行ってきました。このような自由な精神を身につけていたので、Iさんには、分からないものに対して真摯な姿勢で臨む心構えが生まれ、Mさんには、対話とコミュニケーションをより一層大切にできるようなったと思っています。

●リベラルアーツ教育が目指すもの

専門教育だけを重視するような教育機関では、こうした人材を生み出すことはできません。専門教育が陥りやすいのは、たこつぼ型の知識偏重教育や資格取得のための教育に終わってしまうことです。そうした教育から得られた技術や資格は、三〇歳代くらいまでは有用でしょう。しかし、四〇歳代くらいになってグループを統括し、プロジェクトを推進するために仲間をまとめいくという社会的な責任には耐えられないということ、ある上場企業の中央研究所長を務めた友人から聞かされました。そうならないためには、やはり大学

Close up

前学長
鈴木 佳秀



で、自分とは異なる個性との出会いを大切にできる自由な精神を養う教育を受けておくことが必要でしょう。そして、この精神を養うには、四年間という大学生の期間が必要なんだと思います。本学は、まさにこうした教育を二〇年以上実践してきました。社会において責任ある立場に就きはじめて年代の卒業生が、実際に有為の人材として、地元の阿賀北地域や新潟県の発展を支えているのを見ると、大変頼もしいですね。

●誰かのために生きる

私は常々聖書の言葉を引用しながら、本学の学生に、「どうやって人のために生きられるかを考えてください」、「人からして欲しいことを人にしてあげなさい」と語りかけてきました。本学にはこうした言葉の意味を理解して受け入れる



祈りをもってはじめたKeiwa HOPEの活動

素地があります。だからこそ温かく優しい雰囲気や大学に満ちていますし、それはキリスト教主義教育に基づくリベラルアーツ教育の長年の実践の賜物でしょう。二〇一一年の東日本大震災の際、ボランティア組織Keiwa HOPEが学内に速やかに立ち上げられ、多くの学生がこれに参加して自主的に救援活動に乗り出した姿を見た時は、涙が出ました。そうした中で育った卒業生は将来、自然と他者への目配りや気配りができるようになっていますので、どんな職業に就いても生きていけるはずです。そして活躍できるはずです。在学中、私のこうした語りかけに感動してくれた留学生のLさんも印象的な学生の一人でした。現在、ある企業の海外営業部に配属されています。その企業の社長より、Lさんの海外営業成績がトップクラスで、Lさん自身、本学の教育を受けられて本当に良かったと言っているとうかがっています。

●地域との密接な関わり

本学は地元を支えられ、地元との深い絆の上に成り立っている大学です。特にオレンジ会という組織は、本学を招致した新発田市と聖籠町のそれぞれの首長が顧問に名を連ね、地元企業のトップの方々が数多く会員になってくださっている、大学にとって力強い応援団です。この会は開学当初より組織された団体で、今や本学にとって不可欠の存在になっています。本学は、他大学から羨まれる組



オレンジ会の皆さんとのオレンジシティ訪問
(2012年5月)

織であるこのオレンジ会との強固な関係を大切にしていかなければなりません。個人的には、会員の皆さまとオハイオ州オレンジシティへの旅にご一緒させていただいたのはよい思い出になりました。また、オレンジ会を通じて地元のロータリークラブに入会させていただきました。多くの知己を得ることができました。

教育に熱心な新発田市、国際交流に力を入れている聖籠町という、高等教育を行うのに絶好の環境の中に立地する本学は、今後もより一層発展していく可能性を持っています。勤務している教員と職員が絶えず同じ方向を向いて、一緒に仕事をしている姿は貴重ですし、そうした大学は私の知る限り、敬和学園大学以外にはありません。今度も地元との良好な関係を維持しながら、地域を支える人材を輩出していくことができるでしょう。

素晴らしい教育者との出会いに感謝



新発田市長
二階堂 馨

鈴木佳秀学長が、新発田へお出でになられてから、はや六年を迎えます。就任後、当時市議会議長であった私にさつそくごあいさつをいただきました。市議会議長の立場から、まずは新発田の教育の現状と将来像をお伝えしたことを記憶しております。その後は、新発田市教育委員として、実際に新発田の教育現場でご活躍いただき、教育者としての経験から多くのご意見を頂戴いたしました。

また、教育現場以外にも、さまざまな会合でご一緒させていただきました。仕事だけでなく、プライベートの話題にも華が咲きますが、最後に行きつくところは、やっぱり、教育とまちづくりについての話でありました。

僅か六年ではありませんでしたが、しばたのよさ、しばた人のよさを肌で感じていただけたことと思います。これこそが、私からの何よりもの贈りものと思っています。しばたは、いつでも鈴木学長をお待ちしております。そして、これから一層飛躍する新発田の教育にも注目してください。素晴らしい教育者と巡り合えたことは、しばた人の一人として幸せでありました。ありがとうございました。今後一層のご活躍をご祈念申し上げます。

地域志向の教育の推進に感謝



聖籠町長
渡邊 廣吉

鈴木佳秀学長のご退任にあたり、一言ごあいさつを申し上げます。

敬和学園大学は一九九一年四月に建学されて以来、リベラルアーツ教育を行われ、地域との密接な関係を構築されてきました。鈴木学長が就任されてからもそれは変わらず、更に発展されてこられたのではないのでしょうか。

本町との関係で述べますと、新発田市、聖籠町およびオレンジ会との包括連携協定の締結による、地域志向の教育の推進が挙げられます。その一つとして、学生が主体的に学ぶ「地域学」を開講し、地元企業等を通じて地域社会への学生の理解を深めるという取り組みをはじめられました。今後は更なる科目展開をされるに聞きおよびしておりますので、地域課題に対する学生ならではの提言や、フィールドワーク等を通じ、それらの活動が地域活性化につながるものと期待しております。また、中国からの留学生との交流事業においても、鈴木学長ご自身からご出席いただくなど、ご配慮・ご支援をいただきました。

鈴木学長の本町に対するご支援に改めて感謝申し上げますと共に、新たな地での益々のご活躍を祈念いたします。

オレンジ会との深い協働に感謝



オレンジ会長
高澤 大介

ある時、鈴木佳秀学長が少し時間をもらえないか、ということので私の会社にご来社くださいました。お話をうかがいますと、オレンジ会の今後の件でした。「永年、会を支えて来られた故渡辺幸二郎会長の後を継ぎ、これからについてはあなたが働いてくれないか。」と。これには大変驚きましたが、学長自らのお出座しによる真摯なご依頼をお断りすることはできませんでした。

それ以降、お会いする機会は一気に増え、先生の温かなお人柄に触れることが大変多くなります。入学式、卒業式そして謝恩会。それぞれのごあいさつは通り一遍のものではなく、心に沁みるものであり、また時にはユーモアを交えて場を和ませてくださいました。その一方、学者を志す学生に対し、厳しい眼差しで叱咤激励する場面にも遭遇し、研究を極められた誇り高き学者としての一面を垣間見たこともあります。

新・地域学の骨子も固まりつつあり、オレンジ会との協働もこれからという時に大学を去られるのは残念至極ではありますが、今後も先生がお元気で活躍されることを会員一同、心よりお祈りしております。本場にありがとうございました。

「誰かのために」歩んできた四年間

第二回卒業式が三月二〇日、聖籠町民会館で行われました。会場には、思い思いの晴れ着を着た卒業生とご家族の方々が集まり、華やかな雰囲気になりました。

式典では、鈴木佳秀学長から卒業生一人ひとりに、力強い握手と共に「卒業証書・学位記」が手渡されました。

学長からの式辞では、これから社会に出てからも「隣人を自分のように愛して」いくことで、「門が開かれる」と、卒業生たちを激励する温かいメッセージが贈られました。鈴木学長は、卒業生と共に大学を去られます。学長が学生たちと共に「誰かのために」と行動をしてきた六年間最後の思いが込められたメッセージは、卒業生それぞれの胸に深く刻まれたことでしょう。



鈴木学長が1人ひとりと固い握手



学長からの式辞



卒業生から放送設備が贈られました



大宮理事長からの祈祷



ゼミの仲間たちと記念撮影

敬和での学びを社会で生かす

共生社会学科卒業
酒井 恭子



退職後、もう一度勉強したい、さまざまな文化を知りたいという思いを抱き、国際文化学科に社会人入学をしました。久しぶりの学生生活は、戸惑うこともありましたが、若い人たちに混じって授業を受けることは新鮮でした。新しい分野を地道に時間をかけて覚えることは、苦になりませんでした。ところが、入学して一年が過ぎようとして

るころ、東日本大震災が起きました。報道で知る現地の状況は衝撃的でした。そして、このまま自分の興味のままに勉強をするのではなく、何か彼らの役に立つような資格を取得することを目標にしようと考え、共生社会学科に転科し、社会福祉士を目指すことにしました。社会福祉士の試験は科目が多く、覚えることもたくさんありました。私は長時間続けて勉強できるタイプではないので、午前と午後それぞれ一時間程度、集中してやるようにしました。試験直前には体調を崩してしまってもあり、思うように勉強ができない日もありましたが、早めにコツコツ準備を進めていたことがよかったです。無事合格しました。これからは学んだことを社会に生かしていけたらと考えています。

第二一回卒業式・卒業記念パーティーのご報告



卒業準備委員の皆さん



おいしい料理をいただきながら



ダンスサークルによるステージ



退職される先生方からのごあいさつ



お世話になった先生を囲んで

社会人学生として入学した酒井恭子さんの答辞では、若い学生たちと交じって、新しい分野に積極的に挑戦していきたいこと、一緒に支え合い、励まし合ったことへの感謝が述べられました。

卒業式の後、新潟市内のホテルに会場を移し、卒業記念パーティーが行われました。卒業生自身によるダンスなどが披露され、参加した卒業生や保護者の皆さま、教職員とで楽しかった学生生活を思い起こしながら、語らいの時を持つことができました。締めくくりには、参加した卒業生たちが大学生活を共にした恩師や仲間たちと舞台上に集まり、思い思いに記念撮影をしていました。

四年間の敬和学園での学びにより、それぞれの持つ可能性を広げて巣立っていく卒業生たちが、希望の光となり、社会を照らしてくれることを期待します。

四年間を振り返ることで
高まった愛校心

卒業準備委員長

清野 拳斗



私たち卒業準備委員会は、各学科の男女一名ずつ、計六名で構成されています。私たちは、主に卒業アルバム作成と卒業記念品の品目決め、卒業記念パーティーの準備を行いました。

卒業アルバムの作成では、四年間で撮影された数百枚もある写真の中から、アルバムに掲載するものを厳選する作業からはじめました。とても大変でし

たが、私たちの四年間を振り返ることができて、懐かしい気持ちを覚えめました。同期のみんなにも、アルバムをめぐって同じ気持ちを感じてもらえるとうれしいです。

また、卒業記念品は、後輩たちがイベントなどで活用してくれることを願って、オレンジホール(学食)に設置する放送設備一式(スピーカー・アンプ)を選びました。

こういった卒業準備委員会の活動を通して、自分自身の大学生活を振り返ると同時に、後輩たちの未来のことも意識することで、母校への愛校心がますます高まりました。卒業後も、母校の発展に携わっていきたいです。大学生活で出会った教職員の皆さん、地域の皆さま、私たちの活動を支えていただき、本当にありがとうございました。

授業で見つけたたくさんの好きなもの

英語文化コミュニケーション学科 卒業

平 彩花



私の大学生活四年間の中で、一番大きな思い出と言えば、留学になりますが、一番自分に大きな影響を与えたのは、やはり授業だと思います。

イギリスに留学に行くぞ！と決意した理由は、授業を通して英語はもちろん、イギリス文学、イギリス美術に興味を持ったからですし、レポートを書く必要から読んだ物語、研究書が予想外に面白くて趣味の一部になってしまったからです。私は、トロイア戦争が熱い!! シェイクスピアの男装女子がかわいい!! イギリス作家の伝記が小説より奇なり! アーサー王伝説が面白い!! などと、普段から文学の世界に思いを馳せている軽い文学オタクです。趣味は文学と言ってもいいです。だから、授業も、勉強をしていたのか趣味だったのか、趣味で勉強をしていたのかよくわからない感じです。

とにかく、大学で知識を得る楽しさとか、考察の面白さを知れたこと、授業をきっかけに好きなものがたくさんできたことが何よりもよかったです。これから生涯、知識欲は持ち続けたいですね!

メリハリをつけて笑を結んだ大学生活

国際文化学科 卒業

眞野 航



サークルにあまり参加せず、自分の好きな授業だけをとり、少しの友人と過ごしてきた大学生活、こういつてしまうとあまり充実した大学生活でなかったように見えるかもしれませんが、そんな私ですが、授業と就職活動だけは手を抜きませんでした。それらが私の大学生活を結果的に実のあるものにしたと思います。

授業は、「真剣に聞いて楽しむ」ように心がけていました。たまに授業をサポートすることもありましたが、だからこそ「せっかく出席した授業は真剣に聞いて楽しむ」という気持ちで授業に臨みました。それが結果的に成績につながったと思います。就職活動は、四年間ずっと意識していました。自分のモチベーションが保てる業種・職種を日々の生活から考え、昔から好きだった自動車関連の業種に絞って就活し、内定をいただけました。

こうした「がんばるところ」にメリハリをつけられたのも、教職員の方々、友人があつてこそだと思えます。これらの方々に感謝を忘れず、これからの社会生活を楽しく生きていこうと思えます。

敬和での学びと出会いに感謝

共生社会学科 卒業

関 真奈巳



大学生活四年間、たくさんの思い出ができました。また、たくさんのお話を学びました。日々の授業、相談援助実習、就職活動、友達と過ごした日々など、忘れられない思い出ができました。

相談援助実習では、実習準備↓実習↓実習のまとめ↓実習報告会の過程で、上手いかわないことが多々あり、悩んだこともありました。ですが、コーディネーターの池田先生からアドバイスをいただき、高齢者分野について幅広く学ぶことができました。池田先生、厳しいご指導ありがとうございました。

友達と過ごした日々は、今でも鮮明に覚えていきます。授業の空き時間は、よく友達と語り合いました。たくさん助けられ、励まされ、喜びや悲しみを分かち合いました。たくさんさんの優しさで勇気ももらいました。感謝の気持ちでいっぱいです。本当にありがとうございました。

これからは、敬和での思い出と学びを忘れずに、健康に気をつけ、常に感謝の気持ちを持ち、努力していきたいと思えます。四年間ありがとうございました。

新しい就職活動を支える支援体制

皆さんと共に進むキャリアサポート課

大学入試と違い、就職活動は長丁場です。ストレスも溜まります。この試練をどう乗り切るか。こんな不安を抱きながらもがんばる皆さんを支え、一人ひとりに合った方針と一緒に立てるのがキャリアサポート課の役割です。三年生で履修する「キャリア開発1・2」はそのための重要な準備作業です。最初は就職活動に実感の持てない学生も、一年後にはやる気に満ちてきます。ここで培ったやる気、そして目的意識が大切です。これさえあれば、私たちのサポートは大きな効果を発揮します。私たちはいつでも皆さんに寄り添います。進路で思うところがあれば、いつでもキャリアサポート課にお越しく下さい。(キャリアサポート課)



一人ひとりにあった進路を個別指導

信用組合に内定

英語文化コミュニケーション学科卒業

齋藤 大輔



私の就職活動は大学で培ってきたものがしっかりと発揮できた場になりました。就職活動が解禁されたころは、思うような結果が生まれませんでした。しかし、面接を重ねていくうちに手応えを感じられるようになりました。私は、面接という大事な場面で決まりきった表現を使わずに、面接官と「会話」をすることを意識していました。これこそが大学で培ったものです。実際に内定をいただいた二つの企業では、役員面接という大事な場面でそれを発揮することができました。

大学では多くの友人に恵まれ、さまざまな方々と接する機会がありました。コミュニケーションをする機会は、大学でより一層多くなり、そこで培ったものが大事な所で自分らしさとして出せたことがとてもよかったです。また、キャリアサポート課をはじめ、多くの方々からのアドバイスも刺激になりました。

これから素晴らしい企業で働かせていただくことが楽しみです。まずは仕事を覚え、自分らしさを出し、お客さまから信頼される職員を目指します！

就職活動スタート！

学内合同企業説明会の報告

三月一三日、本学体育館を会場に学内合同企業説明会を開催しました。在学生にとっては、就職に関する情報を学内でじっくりと聞くことのできるまたとない機会であり、今年は開学以来最多となる一七社の人事担当者の方にお集まりいただき、午前の部・午後の部と二回に分けて行いました。

学生たちは事前に大教室で出陣式を行い、これから本格化する就職活動へ思いを新たにしました。その後、会場へ移動し、志望する企業のブースへ積極的に訪問していました。参加した企業の方からは「敬和の学生は素直で明るい印象を受けた」といううれしいお言葉もいただきました。(就職委員会)



企業の方からの説明を聴く学生たち

リベラルアーツに想った教員養成を



英語文化コミュニケーション学科
准教授
虎岩 朋加

私の専門領域は、Social Foundations of Educationです。この領域では、人文科学における歴史や哲学といった学問、社会科学における社会学といった学問の方法論や理論を使い、多元的な視点から、社会における教育事象を記述的にそして規範的に研究します。つまり、この領域は、学校を含む教育の諸制度が社会の中で何を行っているのかを明らかにしようとすると同時に、それらが何を行っているべきなのかを提示しようとしています。人文科学や社会科学の諸学問に大いに依拠しているので、教育のリベラルアーツとも言えるでしょう。

敬和学園大学では、まさにこのリベラルアーツの思想に根づく教員養成に力を入れていきたいと考えています。なぜ学校がこの社会の中で、今あるような形やあり方で機能しているのだろうかという大きな問題について、これから教師になるうとする学生の皆さんが、自分自身の見解を構築することができるよう、皆さんの理解能力や分析能力を深めていくことに貢献したいです。そして、変わりゆく日本社会の中での教育の意義や価値について、皆さんと共に考えていきたいです。

「遊牧民」木下の新たな遊牧地



国際文化学科専任講師
木下 光弘

私はチベットや内モンゴルなど中国少数民族地域に関わる中国現代史や民族問題を研究しています。いつのころからか彼らに魅せられ、今では毎年のようにチベットや内モンゴルを訪れます。最近では、日本と中国の関係悪化が多くの場で問題になりますが、少なくともチベット人やモンゴル人の多くは親日的です。そんな彼らに関わる諸問題を研究という「クール」な視点で分析する一方で、明るく楽しい現地の人々が大好きで、すっかり「はまって」しまいました。そして、今では「遊牧民」を自称するほどです。

多くの方々は、「中国の少数民族など自分たちには無関係だ」などと思っていられるかもしれませんが、しかし、彼らの近現代史を考える際には、日本との関係は大変重要です。また、今現在も皆さんが気付かない身近なところでもなっています。この「謎」については、私の授業の中でぜひ皆さんと共に考え、学びたいと考えています。

さて、敬和学園という新たな場所で、中国少数民族地域を含むアジアの魅力、近現代史の魅力に気づくことができる研究教育を目指したいと思っています。よろしくお願いたします。

四年間の集大成 卒業論文のご紹介

四年間の集大成として、学生と教員がマンツーマンで取り組んだ卒業論文から二本をご紹介します。

一九六〇年代前後の
ジョン・F・ケネディの外交姿勢の変化



英語文化コミュニケーション学科卒業
吉田 夏海

卒業論文の執筆を通じ、今まで関心のあった国際政治に対する考え方が更に深まりました。そして、自分の持つ考え方を表現できるようになりました。大学卒業後も世界情勢に関心を持ち、自分なりに理解していきたいと強く感じました。

現代中国社会における高学歴重視の
現象とその背景



国際文化学科卒業
長谷川 達也

中国で大学進学率が上昇し続けていることに興味を持ち、中国で高学歴がどのように扱われているのかを明らかにしたいと考え、卒業論文を書きはじめました。同様の研究が少なく資料探しに苦労しましたが、何先生の熱心なご指導のおかげで完成できました。

革新的な外国語プログラムに挑戦



英語文化コミュニケーション学科
ジョイ・ウィリアムズ

敬和学園大学に赴任した二〇年ほど前のころ、私は、日本の大学で行われていた外国語教育の方式に少々の失望感を抱いていました。クラスの人数が多すぎる上、英語力の異なる学生が一クラスで一緒に、週に一度きりの九〇分授業を受けるのが常でした。これでは、学生の英語コミュニケーション能力を伸ばしていくことに限界があります。

とても幸運なことに、敬和の英語教育は事情が違っていました。学習者中心の授業を行うことで、学生は学びのプロセスに深く入り込み、コミュニケーション活動そのものへの自信を深めます。私は、詩や短編小説、映画を題材にする授業を開発してきました。学生たちは人生で向き合う重要な課題について思考し議論を交わします。こうした環境の中で教育に携われたのは、一教員として、とても刺激的なことでした。教え方を進化させる挑戦に常に挑み続けました。

革新的な外国語プログラムに加え、多様な学生たち、素晴らしい同僚の先生方、勤勉な事務職員の方々が、私の敬和での経験をかけがえのないものにしてくれました。敬和のさらなる発展をお祈りします。本当にありがとうございました。

Keiwa is COOL!



英語文化コミュニケーション学科
杉村 使乃

二〇〇〇年春、松崎洋子学科長（当時）の研究室に、同期の五十嵐海理先生とうかがい、新任に際して温かいお言葉をいただいたこと、そこにひよっこりジェームズ・ブラウン先生が顔を出されたことも含めて、ついこの前のことのように思いたされます。最初の学科のパーティーで、ジョイ・ウィリアムズ先生とブラウン先生のお宅に招かれた時、一足先に到着していた松崎先生とお二人がカウンター越しにワイングラスを傾けてらっしゃるのを見て、「敬和ってかっこいい！」と、日常的に「非日常」に触れられるこの大学で勤められる幸せを噛みしめました。

Keiwa is COOL!この印象は一五年経った今も変わっていません。その要因の一つは多様性です。さまざまなバックグラウンドを持った教職員や学生たち、外からのお客さまを含め、素敵な人たちと身近に接し、たくさん刺激を受け、他では味わえなかった素晴らしい時間を積み重ねることができました。

「敬和はエアポート」、これはブラウン先生の言葉ですが、敬和には、自分の日常を少し超える入口と行先が用意されています。ありがとうございました。

私を再び成長させてくれた敬和に感謝



国際文化学科
何 為民

母校である敬和学園大学で、特任准教授として仕事をしたこの一年間は、私にとって新たな勉強期間であったと感じています。最初は、授業の準備や資料収集、授業内容についての学習など、たくさん不安がありました。幸いに学生時代の恩師もいらしたため、わからないことがあったときには相談のつてもらい、乗り越えることができました。

中国の大学では、ゼミ（演習）という授業がなく、敬和学園大学で初めてゼミを担当しました。そして、五人のゼミ生と交流を深めることができました。経験がない私は、学生時代に受講した神田ゼミや松本ゼミの様子を思い出しながら、そのやり方を真似て授業に臨んでいました。ゼミ生たちの発表は、最初は問題が多かったですが、数回の発表を経験し、徐々に要点をおさえた内容になっていきました。学生たちのレジュメに対しては、その書き方や参考文献に関する問題点なども指摘していきました。このゼミを通じて、学生と同時に私自身も成長することができ、まるで敬和学園大学に再び留学した気分になりました。

母校が私にくれたチャンスに改めて感謝します。ありがとうございました。

アジア・ユース・フォーラム (AYF) に参加して

国境を越えた若者たちとの交流

アジア・ユース・フォーラム (AYF) が、一月末から一週間の日程でバンコク (タイ) で開催され、本学から四名の学生が参加しました。アジア一四ヶ国から六〇名を越える若者が集結し、英語を共通語にお互いの文化を学び合い、社会の諸問題について議論を交わしました。リーダーシップ、責任感、協働を柱にしたセミナーやワークショップを通して、有意義な異文化交流が展開し、参加者は互いの絆を深めました。「現代の奴隷制度」をテーマにしたユネスコ関係者の講演は一同が衝撃を受ける内容でした。主催国タイの学生によるバンコク観光案内はサービス満載で、エキゾチックなタイの魅力を大いに満喫しました。

(国際交流委員会 グッドマーカー)



英語文化コミュニケーション学科四年

工藤 大人

私は自分の見識を広めたい、英語を使つてさまざまな人と交流したいと思ひ、AYFに参加しました。アジア各国の参加者によるプレゼンテーションやパフォーマンスを見て、参加国の文化をよく知ることができ、身近に感じる事ができました。またアジアの国々の文化に触れることによって、日本文化というものゝを改めて考えるきっかけにもなりました。それと同時に自分が属する文化に対する知識の少なさを自覚することができ、異なる文化的背景を持つ人に、もっと日本の文化を伝えたいと思うようになりました。AYFで感じた文化の違いは自分の日本人としての自覚に影響を与えたと思います。



国際文化学科三年

古山 怜奈

外国に行つたみたい、外国人の友達が出来たという理由でAYFに参加しました。私は、この二つの目的を達成しただけでなく、多くのことを学び、考えさせられました。私は国際文化学科なので、英語がうまく話せなくても仕方ないと思つていました。でも、参加者の多くは、英語を専攻してなくても英語が堪能で、他の参加者と楽しく話していました。他国の人に自分が学んだことを話す時、言いたいことを伝える時、英語は重要なのだと感じました。AYFでは素敵な経験をし、尊敬する友達に出会うことができました。また、自分の考えの甘さを感じました。ここで学んだこと、感じたことをこれからの人生に生かしたいです。

おどりでつながるモノ・ヒト・コト

「けいわおどるわ」を開催

「踊ることが大好きな私たちのパワーを何かに生かしたい」と、昨年一二月にチアリーダー部とKeiwa HOPEの協同で、東日本震災チャリティダンス公演「けいわおどるわ」を開催しました。約二〇〇名の方から来場いただき、「笑顔が素敵だった」「一生懸命な姿に感動した」等、好評をいただきました。

ゼロから舞台を創り上げることは困難の連続でしたが、出演者一人ひとりを成長させる機会となりました。チケット売上は遠野まごころネットへ寄付させていただきます。今後もさまざまなカタチで東北の復興を支援したいと思ひます。

(チアリーダー部 コーチ 坂井万里央)



現役学生とOGと一緒に踊ったステージ、コーチの坂井さんも卒業生です

授業紹介③ 「日本近現代史」 担当…藤野豊

日本の歴史を違った角度からとらえ、再考する

戦争の恐ろしさを多面的に考える

日本は明治維新以来、急速に発展し、欧米に対抗する大国となり、アジアの盟主として米英と戦って敗れたが、奇跡的な復興と成長を遂げた！日本人ってなんて素晴らしいんだろ、そんな歴史の本が多くありません。しかし、この講義は違います。アジアから日本を見る、病者・障がい者から日本を見る、地方から日本を見る、女性から日本を見る、そんな視点から近現代日本の歩みを追っていきます。今の日本の政治と社会には、過去の日本を批判すると、「反日だ」と攻撃するような、恐ろしく単純な国家意識がはびこっています。負けずに国境・民族を越えた日本史像を創り上げましょう！



「日本近現代史」を担当する藤野豊先生



国際文化学科四年
小池 まどか

この授業では、知識を積み重ねるだけでなく、歴史を多面的にとらえて理解する大切さを学びました。

日本は敗戦後、連合国軍の占領下に置かれます。日本の改革で、焦点となったのは日本国憲法でした。特に論点となったのは日本国憲法第九条です。当時の首相、吉田茂は九条についてこのように言ったそうです。「先の戦争は、自衛権の名において戦争を行った。再軍備をしたら世界は日本を疑う。日本には誤解される根拠がある。日本は世界平和に貢献することを表明しよう。国際連合が発足すれば、もし日本を武力で攻める国があっても、世界が抑えてくれるだろう。」単純な考えかもしれませんが、戦争の恐ろしさや教訓、平和の望みなど、そんなものが丸ごとこの一文に込められているような気がします。戦争の影響は大きく、一般市民の生活、仕事、娯楽にまで影響が及びます。戦争の恐ろしさを、多面的に考えることができる授業でした。

将来は、地理歴史の教員を目指しています。知識だけでなく、その周辺に対する見識もある教員になりたいです。

学事予告

- ◆ 四月 ◆
 - 一日 学年始め
 - 三日 入学式
 - 後援会総会
 - 六日 ブレイスメントテスト
健康診断（七日まで）
 - 九日 履修相談日
 - 一〇日 前期講義開始
履修登録期間（一六日まで）
 - 一五日 学費前期納入最終日（二〇～四年）
 - 一六日 新入生オリエンテーション（一七日まで）
 - 一八日 学長杯高校生交流テニス大会
（一九日まで）
- ◆ 五月 ◆
 - 八日 入学記念植樹式
 - 二三日 高校生向け英検対策集中講座①
- ◆ 六月 ◆
 - 四日 新発田市オープンカレッジ①
 - 六日 創立二五周年記念教育講演会
 - 一日 新発田市オープンカレッジ②
 - 一五日 創立記念日
 - 一八日 新発田市オープンカレッジ③
 - 二〇日 敬和学園高校対象オープンキャンパス
 - 二一日 オープンキャンパス①
 - 二四日 教員対象進学説明会
 - 二七日 スポーツ大会
- ◆ 七月 ◆
 - 四日 大学オープンカレッジ
 - 聖籠町キッズカレッジ(陶芸教室)①
 - 一日 聖籠町キッズカレッジ(英語教室)①
 - 一八日 オープンキャンパス②
 - 二五日 三年生保護者との就職懇談会
 - 二七日 前期講義終了
 - 二八日 前期末試験(八月三日まで)



自分を变えてくれた出会いと経験



二〇一一年度卒業
須貝 英幸

私は今、複合型福祉施設である「Parcomfy 陽だまり苑」に勤務し、入所されている利用者の方々に対する日常生活上の介護を主な仕事としています。利用者の方々とご家族が安心して幸せに生活していただくために、一人ひとりに合った支援のあり方を学ぶ毎日です。

私は陽だまり苑に就職することができ感謝しています。人見知りで人と話すことが苦手な私に対して、先輩・上司は常に前向きになれるように背中を押してくださり、失敗して落ち込んでいる時には励ましてくださいます。叱咤激励されることで私自身が成長することができ、この職場に愛情を感じています。

日々仕事をする中で感じることは、利用者の方との信頼関係を築いていくことは簡単なことではないということです。まずはその方の名前を呼び、これからお世話をさせていただきますということを伝え理解していただく。誠実な対応を続けることで私という人間を知ってもらうことが、利用者の方々に安心して生活をしていただく上で大切なことだと思えます。

大学に入学したころの私は、人との付

き合いが得意ではありませんでした。そんな私を変えてくれたのは、まちカフエ・りんくでの活動でした。自分たちが運営するカフエにいらっしやる地域の方と関わる中で、少しずつ自分からも声をかけられるようになりました。介護に関する知識や技術を学ぶことも大切でしたが、人と接する仕事を行うために必要な経験ができました。現在の職場でも、先輩や上司の方が、私が利用者の方とのコミュニケーションを取るきっかけを与えてくださいます。このように、まわりの多くの方からの支えのおかげで、人見知りの性格を変えることができたと感じています。多くの人に助けていただいた経験をもちに、これからも、自分が成長できる場である陽だまり苑で、仕事に臨んでいきたいと思えます。



大好きな職場の仲間と囲まれて
(中央が須貝さん)

寄付者のご芳名

(二〇一五年二月二七日現在、敬称略)

〈一般〉

安藤 眞知子、荒井 重人、細見 昌平、
菅野 昭洋、北島 万紀子、小島 一則、
岡崎 慶子、鈴木 史江、脇本 武司、
山際 多美子、

一般社団法人BS社団、株式会社大西、
京都丸太町教会シオン会、

新発田キリスト教会、新井教会、

東中通教会、東中通教会婦人会、

東中通教会 矯風会新潟、

東中通教会 斎藤智子、新潟信濃町教会、

新津教会、新発田教会、新潟教会 婦人会、

新潟YWCA 内海公子、

(社)高倉ひかり保育園理事長 永倉信嗣

〈卒業生・在学生・保護者〉

皆川 靖(一)、新田 和子(二)、

呉 賢欄(三)、岩村 忠輔(五)、

垣内 駿(一九)

〈学園関係〉

北垣 宗治、久島 公夫、長澤 廣子、

鷹澤 昭一・信子、後援会(3)

(一) 内、漢数字は期生、算用数字は回数

皆さまからのご寄付は、学生生活の
充実に活用させていただきます。

〈郵便振替口座〉

〇〇六三〇・九・一九八九六

敬和学園大学



12 December

- 5 チャペル・アッセンブリ・アワー⁽²⁴⁾
説教 加藤順 事務局長「愛するということ」
講話 本間正一郎 本学非常勤講師、新潟日報社参与
「知らない怖さを知る」
- 6 聖籠町キッズカレッジ②「英語で遊ぼう」(9名)
- 12 チャペル・アッセンブリ・アワー⁽²⁵⁾ (写真1)
説教 笹川雅弘 新潟福音教会牧師
『クリぼっち』にさようなら
クリスマスコンサート 新潟ゴスペルチャーチクワイア
- 13 AO入学試験(3期) 面談日①
- 16 留学生を支える会 奨学金贈呈式
- 17 アンゴラ共和国大使特別講演会(約80名)
- 19 チャペル・アッセンブリ・アワー⁽²⁶⁾
クリスマス燭火礼拝
説教 下田尾治郎 宗教部長
「クリスマスー平和への志と希望を胸に抱くとき」
キャロリング(19名)
- 20 第1回入学前スクーリング(学生102名、保護者30名)
- 24 講義終了
- 25 冬期休暇(～1月4日)
- 26 AO入学試験(3期) 面談日②
- 29 冬期特別休業(～1月3日)



1 January

- 5 講義再開
- 9 AO入学試験(3期) 合格発表
チャペル・アッセンブリ・アワー⁽²⁷⁾
説教 小池正造 日本基督教団東新潟教会牧師「隣人」
講話 青木盛 キリスト教海外医療協力会ワーカー
「未来に続く小さな命の灯をまもるために」
- 16 チャペル・アッセンブリ・アワー⁽²⁸⁾
説教 下田尾治郎 宗教部長「悪に絶望することなく」
講話 アロンソ・ホアンマテオ
英語文化コミュニケーション学科4年
「巡礼の歩み」
- 17 大学入試センター試験(～18日)
- 20 教職課程反省会
- 20 留学生交流もちつき交流会(約100名、写真2)
- 23 チャペル・アッセンブリ・アワー⁽²⁹⁾
説教 鈴木佳秀 学長
「わたしはあなたと共にあろうとする」
後期エッセイ・コンテスト授賞式ほか
- 24 後期講義終了
- 25 第27回社会福祉士国家試験
- 26 後期末試験(～30日)
- 31 学業選抜特待生試験(学力試験型)、一般入学試験(A日程)、外国人留学生入学試験(1期) 試験日



2 February

- 1 春期休暇(～4月5日)
共生社会学科全体報告会 (写真3)
- 2 後期集中講義期間(～20日)
- 3 英語文化コミュニケーション学科卒業論文発表会
- 4 AO入学試験(4期) 面談日①
- 6 学業選抜特待生試験(学力試験型・センター試験利用型1期)、一般入学試験(A日程)、大学入試センター試験利用入学試験(1期)、外国人留学生入学試験(1期) 合格発表
- 9 国家試験対策講座1(～13日)
- 10 みらい応援私募債 贈呈式 (写真4)
- 12 後期末追試験(～16日)
AO入学試験(4期) 面談日②
- 17 一般入学試験(B日程) 試験日
- 20 一般入学試験(B日程)、AO入学試験(4期) 合格発表
- 21 第2回入学前スクーリング(学生122名、保護者24名)
- 25 再試験(～26日)
国際文化学科卒業論文発表会
- 28 第7回「阿賀北ロマン賞」授賞式、
まちの駅よろず「新発田学研究センター」
開所8周年記念イベント(聖籠町町民会館、250名)
特別ゲスト 石坂浩二氏(俳優)
対談者 加藤宗哉 作家・「三田文学」前編集長
「石坂浩二氏による朗読会と対談」(写真5)



3 March

- 2 図書館蔵書点検(～13日)
- 6 学業選抜特待生試験(センター試験利用型2期)、大学入試センター試験利用入学試験(2期)、合格発表
- 11 一般入学試験(C日程)、外国人留学生入学試験(2期) 試験日
- 13 学内合同企業説明会(117社168名)
一般入試(C日程)、外国人留学生入学試験(2期) 合格発表
- 20 第21回卒業式(聖籠町町民会館)
卒業記念パーティー(ANAクラウンプラザホテル新潟)
- 26 推薦入学試験(指定校I2期) 試験日、AO入学試験(5期) 面談日
- 27 学業選抜特待生試験(センター試験利用型3期)、推薦入学試験(指定校I2期)、AO入学試験(5期)、大学入試センター試験利用入学試験(3期) 合格発表
- 31 オープンキャンパス
学年終わりの

Gems in KEIWA

チャレンジ学生ファイル Vol.48

敬和の卒業生であることを誇りに

英語文化コミュニケーション学科 卒業
尾澤 玲名



フリースタイラーズと軽音楽部の仲間たちと
(2列目中央が尾澤さん)

中村義実先生のコメント



尾澤さんは大学を盛り上げるためにたくさんの働きをしてくださいました。サークル活動のリーダー役に加え、オープンキャンパスや敬和祭(学園祭)でも数々の大役をこなしました。とりわけ、見事なトーク(司会役)、弾き語りの歌声が印象に残ります。多彩な才能をフルに生かして大学に貢献している姿はいつも輝いていました。素晴らしい4年間に拍手を送ります。

敬和で過ごした4年間、ここでは語りつくせないほどの思い出がありますが、その中でもサークル活動は私にとってかけがえのないものでした。

バレーボール部に加え、フリースタイラーズ(ダンスサークル)と軽音楽部にも所属し、それぞれ違った仲間と大切な時間を過ごしました。全く関わりのなかったサークル同士ですが、4年生のクリスマスに、軽音楽部の演奏でフリースタイラーズが踊るという、初めての合同イベントを開催しました。私にとってはどちらもよく知る後輩たちが、お互いに成功に向けて協力し合う姿を見て、これからもサークルの枠を超えた大きなイベントを開催できる後輩たちを(彼らには秘密ですが...)羨ましく思いました。

サークル活動を通じて人の繋がり、優しさを感じながら、大きく成長することができました。春からは社会人です。敬和で学んだことを生かし、今まで支えてくださった皆さまに感謝し、敬和の卒業生であることを誇りにして、胸を張ってがんばっていきます。



敬和学園大学の最新情報

敬和学園大学

検索

www.keiwa-c.ac.jp

